

学部横断型副専攻（Cross Major Program）の導入と スポーツアドミニストレーションプログラムの試み

長 倉 富 貴

I. はじめに

1. 本学におけるスポーツ系専門領域の整備

今日、スポーツ産業構造が複雑に発展し、スポーツ組織や競技団体はより多くのステークホルダーとよい関係を保っていかなくてはならない時代となり、ヒト、モノ、カネ、情報といった資源を活用しながらバランスよく組織を舵取りするマネジメント能力のある人材が必要とされている。従来の競技の知識、技術に加えて、スポーツマネジメントやスポーツマーケティング、法律やビジネスの専門知識など、幅広い知識をもった人材が求められている。1990年代には当時の通産省が、スポーツ界で即戦力となって活躍する人材育成の必要性をうけて、日本スポーツ産業学会の設立を後押しし¹、この学会を中心として大学でのスポーツ産業界で活躍する人材育成を目的としたカリキュラム設置に向けて動き出した。海外からスポーツビジネスのパイオニアである事業家を招聘したり²、アメリカの先進的な大学のスポーツマネジメントプログラムなどのカリキュラムを紹介したり、テキストを翻訳したりした³。その後次々と大学にスポーツ経営、スポーツマネジメント系のカリキュラムが増えることになった。現在では約 150 の大学がスポーツマネジメント系のカリキュラムを展開している⁴。

本学では 1980 年代からスポーツ強化部を指定し、大学としてクラブの強化育成にも力を入れてきた。各クラブの競技成績は国内トップクラスで⁵、オリンピックや世界大会で活躍する

数多くのトップアスリートを輩出してきた⁶。学生アスリートに対して、競技面だけでなく生活面、学習面、メンタル面など幅広いサポートを提供し、日本オリンピック協会（JOC）からはトップアスリートサポート賞（2004 年度）⁷、文部科学省からはスポーツ功労団体賞（2010、2013 年度）⁸などが贈られている。

スポーツ経験豊富で競技能力も高い学生アスリートが数多く本学に入学する一方で、彼らの経験値を最大限に活かし学べるようなスポーツや体育の専門的なカリキュラムは存在していなかったが、H20 年度から経営情報学部経営情報学科にスポーツマネジメント履修モデルとして、スポーツ系の専門科目が 21 科目（のちに 25 科目）が開講しスポーツ分野を専門領域として学ぶ環境が整えられた。

そしてこの経営情報学部のスポーツマネジメントプログラムを軸に H24 年度より（プログラムへの登録は H25 年度から）法学部、現代ビジネス学部にも学部の専門領域に応じたスポーツ系の専門科目を開講し、3、4 年生の演習も含めて学部の枠を超えて横断的に履修できるように発展させたのが学部横断型副専攻スポーツアドミニストレーションプログラムである。学部横断型プログラムを利用することで主専攻の学修に加えて、スポーツ関連科目と多彩な分野で展開される基礎科目と合わせて学ぶことで、将来の仕事の幅や選択肢が広がると考える。例えば、法学部所属の学生が地方自治体の職員として地域のスポーツ行政や地域住民の健康増進プログラムの推進にあたるケース、法律とス

スポーツの知識を活かしてプロスポーツ選手の代理人業務を担うようなケース、また、現代ビジネス学部の学生が経営のノウハウ、簿記会計の知識にスポーツの専門知識が加わることでスポーツビジネス界で活躍するケースなどが考えられる。

本学の学部横断型副専攻（Cross Major Program）」（以下、「CMP」という）はスポーツ系のプログラムであるスポーツアドミニストレーションプログラムの他、観光・ホスピタリティプログラム、国際教養プログラムと共に平成24年度にスタートした。平成25年度にはアートマネジメントプログラムも追加され現在は4つの学習プログラムに分かれて展開されている。以下にCMPの概要について説明したい。

2. 本学の学部横断型副専攻の概要

CMPは、学生が所属する学部学科の専攻の学問領域に加えて、複数の学部、学科にわたる授業科目を一定の学修テーマごとに「学部横断」的に把握し、それぞれのテーマに基づいて「副専攻」型の学修プログラムとして授業科目をグループ化したものである。所属する学部・学科ごとの専門性を確保・補償しつつ、他の学部・学科で開設される授業科目を実践的なテーマに基づき活用することで、より社会のニーズに対応できる人材の育成ができると考えている⁷。

CMPは法学部法学科・政治行政学科、現代ビジネス学部現代ビジネス学科、経営情報学部経営情報学科の社会科学系の3学部4学科に配置し、この3学部4学科の範囲で副専攻型プログラムを活用できる。卒業時までにはプログラムごとに必要とする単位数（30単位）を修得すると、所属学科で授与する学氏の学位の他、CMPの学修プログラムを修了したことを認定する「学修証明（Certificate）」が交付される。CMPの登録は2年生からになるが、選択した

学修プログラムに属する科目について1年生の時に修得した単位も、学修プログラムごとに必要とする単位数に含めることができる。そしてCMPの学修証明に必要なとなる30単位のうち、24単位までを限度として所属学科以外の授業科目の単位も卒業要件単位として含めることができる。

3. 各プログラムの特徴

CMPでは現在4つのプログラムが展開されている。各教育プログラムの概要は以下の通りである。

〈スポーツアドミニストレーションプログラム〉

社会とスポーツの関係を、社会科学の関連分野から結びつけ、社会科学・スポーツマネジメント・スポーツサイエンスなど、学際的視点からの融合による相乗効果により、スポーツに対する社会のニーズに対応できる人材を育成する。

〈観光・ホスピタリティプログラム〉

観光に関する専門知識や国際感覚を身につけるとともに、「心のもったおもてなしの精神」(ホスピタリティ)を養成することにより、観光産業・観光行政で幅広く活躍できる人材を育成する。

〈国際教養プログラム〉

実用的な語学能力・異文化コミュニケーション能力・異文化理解と豊かな国際感覚を身につけ、国際政治・国際経済、あるいは民族・移民問題など、地球規模の諸課題に対応できる知識を備えたグローバル化時代に対応できる国際人を育成する。

図 1 主専攻と CMP の関係



図 3 スポーツアドミニストレーションプログラムの科目一覧

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
総合基礎教育	基幹・基礎	スポーツと健康II (フィットネス＝健康運動)			
	発展・主題	スポーツと法 スポーツ経営学 スポーツ科学	スポーツ社会学 トレーニング論 スポーツ医学		
専門教育科目	法学科	スポーツアドミニストレーション概論 スポーツ法学I・II スポーツアドミニストレーション実践		スポーツ政策論 演習II (テーマ: スポーツアドミニストレーション)	演習III (テーマ: スポーツアドミニストレーション)
	政治行政学科	スポーツ法学I・II スポーツアドミニストレーション実践		スポーツ政策論	
	現代ビジネス学科	スポーツアドミニストレーション概論 スポーツとビジネスI・II スポーツアドミニストレーション実践			
	経営情報学科	スポーツマネジメント論I・II スポーツアドミニストレーション概論 スポーツマーケティング論I・II スポーツ産業論 スポーツコミュニケーション論 スポーツメディア論I・II スポーツと地域貢献I・II イベントマネジメント スポーツ・レクリエーション特講 身体情報処理論 スポーツとビジネスI		スポーツデータ論I・II スポーツ情報論I・II スポーツとビジネスII スポーツリーダー論 チームマネジメント	
		スポーツアドミニストレーション実践		専門ゼミナールI (テーマ: スポーツアドミニストレーション)	専門ゼミナールII (テーマ: スポーツアドミニストレーション)

〈アートマネジメントプログラム〉

文化・芸術と社会・経済との接続を追求し、文化・芸術を「芸術産業」として新たな日本の基幹産業へと発展させ、文化・芸術の本質的価値に加え経済的付加価値の創造もできるアートマネジメント人材を育成する。

II. スポーツアドミニストレーションプログラムの概要

1. 経営情報学部のスポーツマネジメント履修モデルと CMP スポーツ

スポーツアドミニストレーションプログラムは経営情報学部のスポーツマネジメント履修モデルカリキュラムを軸にして、法学部、現代ビ

ジネス学部にもスポーツ系の専門科目を加え、スポーツマネジメント論、スポーツとビジネス、スポーツ政策論、スポーツ法学、スポーツ情報論など従来の学問領域の枠、学部の壁をとりはずしスポーツという観点から専門知識が学べるカリキュラムとして発展させた。

a) 科目一覧表

スポーツアドミニストレーションプログラムでは総合基礎科目が9科目、専門科目が30科目配置されている。スポーツ系資格は日本体育協会指導者資格I、II、III、日本体育協会アシスタントマネージャー資格、日本レクリエーション協会レクリエーションインストラクター資格がカリキュラム認定を受けている。以下が資格に必要な科目である。

2. スポーツアドミニストレーションプログラムの認定要件

スポーツアドミニストレーションプログラムでは学修認定には指定カリキュラムの中から30単位以上を取得することを要件としている。総合科目から8単位以上14単位まで、専門科目から16単位以上22単位までを認定としている。

総合基礎科目	8単位以上
専門科目	16単位以上
合計	30単位以上

3. 取得できる資格と認定科目

- ① 日本体育協会指導者資格I、II、III 認定科目
スポーツと法、スポーツ経営学、スポーツ科学、スポーツ社会学、トレーニング論、スポーツ指導論、スポーツ医学、スポーツ心理学
- ② 日本体育協会アシスタントマネージャー資格 認定科目

スポーツと地域貢献I、スポーツと地域貢献II、スポーツ産業論

- ③ レクリエーションインストラクター資格認定科目
スポーツマネジメント論I、スポーツ・レクリエーション特講、イベントマネジメント、スポーツと健康II（フィットネス）
+ 現場実習2回

4. 特色ある授業

スポーツアドミニストレーションプログラムでは以下のような特色ある授業が展開されている。

- ① スポーツ法学I、II（2年次）
スポーツに関する法律、訴訟例、リスクマネジメント、選手のマネジメント業務、代理人の仕事などについて学ぶことができる。
- ② スポーツ情報論I、II（3年次）
スポーツ科学の専門家（トレーナー）と情報科学の専門家の2名が担当し、理論面、実践面について講義および演習を行う。身体の測定やケガの具合、トレーニング方法を定量化しそのデータに基づいたリハビリテーション・トレーニング方法についてスポーツ科学および情報科学の観点から多面的に学べる。
- ③ スポーツとビジネスI、II（3年次）
スポーツ界のさまざまな現場で活躍する人を外部講師として招き、スポーツの仕事について、その方の人生観、キャリア観について考え学ぶ。
- ④ イベントマネジメント（2年次）
学生自身のアイディアでスポーツイベントを企画実施する実践型の授業。広報宣伝、会計、運営企画、企画書・報告書の作成等、実践の場で学ぶ。
- ⑤ スポーツアドミニストレーション実践（2年次）
夏休みなどを利用しスポーツ系企業、団体での現場実習（インターンシップ）をした後、実習

先に対しての集客プロモーションやスポーツ系イベントや大会などの企画提案を行う。

⑥ 演習（ゼミナール）（3、4 年次）

演習については以下の 5 つが各テーマ研究に基づいて募集している。

ゼミ名	所属学部	テーマ
入江ゼミ	経情	スポーツマーケティング
岸ゼミ	経情	スポーツ情報 トレーニング管理
寺本ゼミ	経情	スポーツトレーニング
長倉ゼミ	経情	スポーツマネジメント
藤吉ゼミ	法	スポーツ法

5. スポーツアドミニストレーションプログラムに対する学生の関心

H24 年度に入学した 3 学部 4 学科の入学生全員を対象としたアンケート調査の結果（配布数 840 枚、回収率 98.4%）では CMP のスポーツアドミニストレーションプログラムに興味を持つ学生は 247 人とかなり高い関心を示している

ことがわかった。（図 3 参照）

H25 年度は 2 年生で CMP プログラムに興味を持つ学生だけを対象にアンケート調査を行ったが、スポーツアドミニストレーションプログラムは CMP の他プログラムに比べても学生の所属学部学科に関わらず関心が高いことがわかった。（図 4 参照）

III. スポーツアドミニストレーションプログラムの現況

1. 科目履修状況

① CMP スポーツアドミニストレーションプログラム登録状況

2 年次でのスポーツアドミニストレーションプログラムへの登録状況は平成 25 年度で 90 名、平成 26 年度で 162 名であった。平成 26 年度は大幅に人数が増えたのは、プログラムの周知されたためだと考えられる。（図 5 参照）

図 3 新入生の CMP への興味関心

（H 24 年度新入生アンケートより）

学科	興味・関心のあるプログラム（複数回答可）					回答数	合計
	スポーツ	観光	国際教養	興味なし	回答なし		
法学科	54	38	28	137	5	262	120
政治行政学科	48	36	28	72	6	190	112
現代ビジネス学科	52	39	23	69	1	184	114
経営情報学科	93	23	18	76	4	214	134
合計	247	136	97	354	16	850	480

図 4 興味・関心があるプログラム（複数回答可）

（H 25 年度 2 年生の CMP に興味ある学生を対象としたアンケートより）

学科	興味・関心のあるプログラム（複数回答可）				合計
	スポーツ	観光	国際教養	アート	
法学科	17	2	7	2	28
政治行政学科	11	16	7	6	40
現代ビジネス学科	26	19	7	5	57
経営情報学科	38	6	7	0	51
合計	92	43	28	13	176

図5 スポーツアドミニストレーションプログラム登録状況

	法学科	政治行政学科	現代ビジネス学科	経営情報学科	計
H25 年度	17	11	18	44	90
H26 年度	31	13	63	55	162

② 科目別履修人数

CMP スポーツアドミニストレーションプログラム科目はどの科目もおおむね履修人数が多い。特にCMPプログラムのスタートと同時に開講した初年度のスポーツ法学Ⅰ、Ⅱの履修人数は多く、H24年度はスポーツ法学Ⅰ（290名）、スポーツ法学Ⅱ（263名）、H25年度はスポーツ法学Ⅰ（279名）、スポーツ法学Ⅱ（255名）となった。また3学部4学科にまたがって専門科目として25年度より開講されたスポーツアドミニストレーション概論も249名と履修人数が多くなった。実技、実習、演習を除く講義科目の23科目だけを見てみるとH24年度からH26年度の平均履修人数は91～95名と比較的多いことがわかる。また経営情報学部の情報領域の専門性の高いスポーツ情報論Ⅰ、Ⅱと身体情報処理論を除くほとんどすべての科目で他学部履修者がいることがわかった。（図6参照）

2. 活動状況

現在はH24年度以降入学生のみがCMPプログラムの対象学年であるが、経営情報学部のスポーツマネジメントプログラム履修者も含めた学生を対象に、学外のスポーツ関連団体、企業、自治体とも連携して実践的な教育プログラムを展開している。特に地域のスポーツ関連イベントや大会に運営スタッフとして参加する中でスポーツ現場のマネジメントについて学ぶ機会を提供している。また学外の団体や自治体から学生の派遣や企画運営を委託されることも多い。H20年度からJリーグクラブのヴァンフォーレ山梨スポーツクラブからホーム試合時のスタジ

アム場外の参加型イベントの運営を委託されている他、山梨県老人クラブ連合会から依頼を受けた高齢者向け「健康づくりリーダー研修会」（H25年8月10日開催）や、山梨県国際交流協会から依頼された国際スポーツフェスタ（ミニテニス大会）などは学生による企画で行われた。また障害者と健常者のスポーツ交流イベント（H26年度障害者と健常者のスポーツ交流事業）や小学校、中学校の朝の時間や休み時間に運動プログラムを提供する、文部科学省の委託事業（日本レクリエーション協会受託）の「H26年度学校まるごと元気アップ事業」への学生派遣にも協力している。

① 地域スポーツイベントへの学生派遣状況

図7と図8はH20年にスポーツマネジメントプログラムがスタートして以来の学外への学生派遣人数の推移であるが、近年、派遣人数は増加している。特にH25年度は派遣する対象学生がCMPの導入により他学部へ広がったことによって大幅に増加した。H25年度は関連団体からの要請や依頼に応じて、県内のおよそ15のスポーツ関連団体の51の大会や・スポーツイベントに述べ数で717人の学生を派遣し、スポーツ関連イベントや大会での運営のサポートを行った。派遣先イベントとしてはヴァンフォーレ甲府のホーム試合（19試合）の他、山梨県体育協会の主催事業、県レクリエーション協会的主催事業等があげられる。先にあげた文科省委託事業「健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業」（南アルプス市にて開催）には52名が参加した。CMPの導入により従来からの経営情報学部の学生に加え、法学部

図6 スポーツアドミニストレーションプログラムの科目別履修人数

区 分			選択必修	科 目 名	24 年度	他学科履修者	25 年度	他学科履修者	26 年度	他学科履修者	備考					
総合基礎教育科目			8単位以上14単位までを認定科目にカウント	スポーツと法 (a)	197		176		210		* (a) は法・行政対象 (b) は現ビ・経情対象					
				スポーツと法 (b)	146		179		204							
				スポーツ経営学 (a)	142		100		102							
				スポーツ経営学 (b)	170		191		166							
				スポーツ科学 (a)	117		93		125							
				スポーツ科学 (b)	216		165		233							
				スポーツ社会学 (a)	107		99		88							
				スポーツ社会学 (b)	218		243		174							
				トレーニング論 (a)	166		179		188							
				トレーニング論 (b)	156		214		206							
				スポーツ指導論 (a)	181		135		145							
				スポーツ指導論 (b)	250		177		200							
				スポーツ心理学 (a)	82		81		145							
				スポーツ心理学 (b)	173		136		114							
専門教育科目（科目配置学科）	経営系	情報系	16単位以上22単位未満	スポーツマネジメント論Ⅰ＜担当 a>	97	9	94	18	64	3						
				スポーツマネジメント論Ⅰ＜担当 b>	48	8	81	13	73	17						
				スポーツマネジメント論Ⅱ＜担当 a>	47	18	81	17	102	32						
				スポーツマネジメント論Ⅱ＜担当 b>	86	10	96	19		H26 年度より閉鎖						
				スポーツマーケティング論Ⅰ	146	2	148	19	164	25						
				スポーツマーケティング論Ⅱ	134	13	137	31	157	11						
				スポーツ産業論	155	19	152	43	172	45						
				スポーツ・レクリエーション特講	56	3	29	10	45	6						
				スポーツリーダー論	18	3	26	2	61	7						
				スポーツコミュニケーション論	100	5	65	22	65	7						
				身体情報処理論	26	0	19	2	27	4						
				スポーツデータ論Ⅰ	74	2	82	7	95	7						
				スポーツデータ論Ⅱ	59	2	90	7	90	10						
				現代ビジネス学科	法学部	認定科目	共通	スポーツ情報論Ⅰ	103	0		105	5	120	14	
	スポーツ情報論Ⅱ	37	1					55	11	67	0					
	スポーツと地域貢献Ⅰ	57	21					60	7	110	25					
	スポーツと地域貢献ⅠⅠ	53	13					29	3	69	23					
	スポーツメディア論Ⅰ	116	0					137	23	132	18					
	スポーツメディア論Ⅱ	99	0					93	20	123	10					
	チームマネジメント	27	0					22	0	12	2					
	イベントマネジメント	8	2					24	14	31	18					
	スポーツとビジネスⅠ							196	8	212	2	H25 年度開講				
	スポーツとビジネスⅡ											H27 年度開講				
	スポーツ政策論 (H27～)											今後開講予定				
	スポーツ法学Ⅰ	290						279		159	7	他学科履修許可は				
	スポーツ法学Ⅱ	263						235		164	2	H26 年度より				
	専門共通								スポーツアドミニストレーション概論			246	193	140	120	
				スポーツアドミニストレーション実践 (インターンシップ)	11	2	19		3	28	10	他学科履修許可は H26 年度より				
				専門ゼミナールⅠ (スポーツアドミニストレーション)＜担当 a>	36		46			34	0					
				専門ゼミナールⅠ (スポーツアドミニストレーション)＜担当 b>	15		19			14	0					
				専門ゼミナールⅠ (スポーツアドミニストレーション)＜担当 c>	27		28			29	3					
				専門ゼミナールⅠ (スポーツアドミニストレーション)＜担当 d>						17	0	H26 年度開講				
				演習Ⅱ (スポーツアドミニストレーション)＜担当 e>						9	0	H26 年度開講				
				専門ゼミナールⅡ (スポーツアドミニストレーション)＜担当 a>	36		46			34	0	他学科履修許可は H26 年度より				
				専門ゼミナールⅡ (スポーツアドミニストレーション)＜担当 b>	15		19			14	0					
				専門ゼミナールⅡ (スポーツアドミニストレーション)＜担当 c>	27		28			29	3					
				専門ゼミナールⅡ (スポーツアドミニストレーション)＜担当 d> (H26～)									H27 年度開講			
				演習Ⅲ (スポーツアドミニストレーション)＜担当 e> (H26～)								H27 年度開講				
				合計履修人数					4811	133	5158	497	5200	431		

図7 学生派遣人数

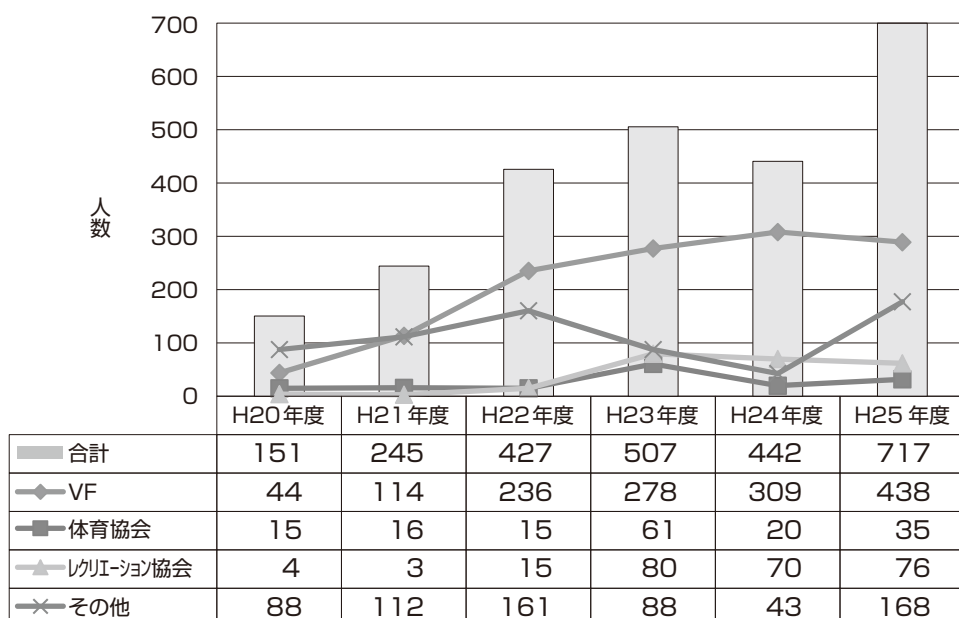
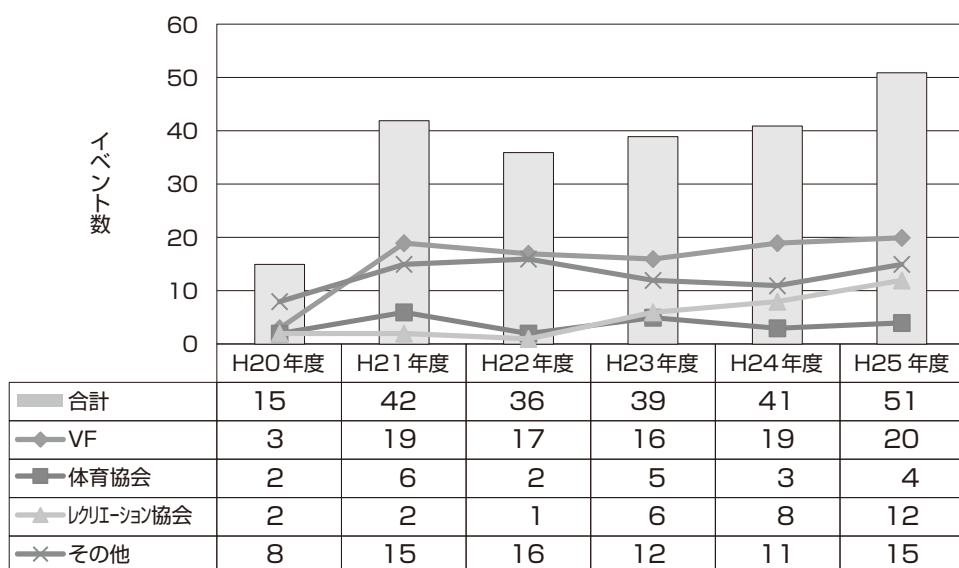


図8 派遣先イベント数



などの学生も数多く学外活動に参加するようになった。

② 活動報告会

H25年度末にCMP スポーツアドミニストレーションプログラムの活動報告会を開催した。プログラムがスタートして2年目の取り

組みについての紹介、インターンシップ報告、学生の学外実践活動報告、研究報告などを中心に行われた。学内の教職員や学生、インターンシップの受け入れ企業、団体などの担当者を始め、県や自治体の職員やスポーツ関係者など約130名が参加し開催された。

IV. 現状の課題と今後の方向性

プログラムのスタートとしては順調な展開をみせている。CMPを利用して他学部からの履修者が情報科目を除くほぼ全ての科目にある程度いることからスポーツ系科目の需要が高いことがわかった(図7参照)。しかしながら1年生と2年生のアンケートを比較すると入学当初CMP、あるいはスポーツアドミニストレーションに興味を示していた学生が2年次では関心を示さなくなる傾向があることから(図3、4参照)、本格的なプログラムの履修がスタートするまでの1年間、どのように学生を魅きつけておくかは今後の課題である。

また、プログラムの科目数は多いけれども専門科目を担当する教員は専任が3人、非常勤が7人、ゼミも専任が3人、非常勤が2人で担当している状況は教育の質の担保からも専任教員を増やしていくよう改善すべきであろう。

また、スポーツ系の科目の履修にかなりの需要が見込まれることから、今後は学科としての独立も視野に入れ検討する余地がある。

註釈

- 1 日本スポーツ産業学会は、通商産業省(現:経済産業省)が文部省(現:文部科学省)の協力を得て設置したスポーツ産業研究会(1989)を母体として、1990年10月に設立された。研究会でまとめた「スポーツビジョン21」には「これからはスポーツ産業を研究する団体と大学での研究者養成が必要」と示され、「スポーツ産業の健全な発展と国民のための豊かなスポーツ環境の醸成に資する」ことを目的として学会が発足した。
- 2 1991年8月に開催された第1回学会大会では、IMG社長のマーク・マコーマック氏が招聘された。
- 3 日本スポーツ産業学会ではプロジェクトチームを組み、「スポーツマネジメント～スポーツビ

ジネスの理論と実際」(ボニー L. パークハウス編著、日本スポーツ産業学会監訳、1995年、大修館書店)を出版した。

- 4 マイナビ進学、<http://shingaku.mynavi.jp/> 2014年12月20日アクセス
- 5 2014年度は柔道部女子優勝、野球部は神宮大会出場、レスリング部は内閣府大会優勝、及び学生選手権優勝、水泳部は関東大会男女アベック優勝など活躍。
- 6 山梨学院大学出身の現役、卒業生の過去のオリンピック出場選手は延べ人数で夏季大会には24名、冬季大会には17名を派遣している。日本代表選手として海外の大会へ参加した選手の数は300名以上である。
- 7 JOCは2004年度にトップアスリートサポート賞を設け、初代受賞の受賞は山梨学院大学の他に日体大、日大など10の大学が受賞した。
- 8 文部科学省は2010年度にスポーツ団体功労賞を設け、山梨学院大学は初年度の受賞となった。

参考文献

1. 長倉富貴、「山梨学院大学の授業を活用した地域連携事業の試み～スポーツマネジメントプログラムの実践教育の取り組み～」、山梨学院大学経営情報学論集、2014年
2. ボニー L. パークハウス編著、「スポーツマネジメント～スポーツビジネスの理論と実際」、1995年、日本スポーツ産業学会監訳、大修館書店
3. 2014年度(平成26年度)学生便覧、山梨学院大学
4. 学部横断型副専攻パンフレット(H26年度版)
5. 日本スポーツ産業学会ホームページ、<https://www.spo-sun.gr.jp/>、2014年12月20日アクセス

参考資料 新入生アンケート用紙

学部横断型副専攻（Cross Major Program）に関するアンケート

学部・学科		学 年	
学 籍 番 号		氏 名	

以下の質問に関し、該当する箇所に☑を記入してください。

- どのような入試で入学しましたか。
☐一般A・B・S方式 ☐一般推薦 ☐指定校推薦 ☐AO入試
☐センター試験併用 ☐スポーツ推薦 ☐留学生 ☐スカラシップ ☐その他
- 学部横断型副専攻（Cross Major Program）を入学前に知っていましたか。
☐はい ☐いいえ
- 「はい」と答えた人は、何で知りましたか。
☐ホームページ ☐オープンキャンパス ☐大学案内のパンフレット
☐新聞記事・広告 ☐高校の先生 ☐進学雑誌 ☐その他（ ）
- 該当する箇所に☑を記入してください。
☐スポーツアドミニストレーションプログラムに興味がある。
☐観光・ホスピタリティプログラムに興味がある。
☐国際教養プログラムに興味がある。
☐現時点で興味はない。

回答ありがとうございました。切り取り線で切って、教員に提出してください。